



【 力が付く九九検定（全員合格！） 】

- 2年生は、校長室で一人一人ずつ「九九検定」をしました。これまで学校や家で一生懸命に練習してきた成果を発揮し、見事全員が合格しました。「九九検定」は、誰もが小学2年生のとき、何らかの形で行ったと思います。私も思い出があります。私の場合は、教室で担任の先生に「2の段」から順番に言い、何日かにまたがって、最後の「9の段」までうまく言えたら合格でした。しっかりとと言えるまで合格はもらえませんでした。必死で練習した記憶はあります。
- そこで、井波小学校の「九九検定」について考えると、特にすごいと思うことが二つあります。一つ目は、**「校長室」で行う**ことです。私が小学生のときに校長室に入った記憶は1回あります。それは、6年生のときに、イタズラをして叱られたときです。さすがに、校長室で校長先生から叱られると、涙が出そうになった記憶があります。ましてや、2年生が校長室に入り、しかも検定を受けるとは、かなり緊張するはずで、案の定、日頃は九九がしっかり言える子供でも、緊張して1回目は不合格だった子供もいます。しかし、それを乗り越え、全員が合格しました。この経験は、大人になっても生きるのではないかと思います。
- 二つ目は、**「2の段」から順番に言う方法ではない**ということです。やり方として、5袋の袋の中から、自分で1袋を選びます。その中に入っている10枚のカードに九九が書いてあります。しかも、「 7×5 」「 4×3 」「 9×3 」「 5×2 」など、いろいろな段が混ざっています。この**アトラダムに出される九九に答える**のです。これは、順番に言う方法より**ハードルが高い**と思います。九九の途中の問題を出されると、しっかりと覚えていないと、そう簡単に言えるものではないと思います。
- 私は、井波小学校のやり方で、「九九検定」で合格した子供はレベルが高いと思います。子供たちのこれまでの努力、緊張感を乗り越えたこと、合格したこと等に対して、改めて子供たちのすごさを感じました。

メダルをかけたもらったときの子供たちの喜ぶ表情や動作は忘れません。

